

## 2022（令和4）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

一 集団間では排除しあう一方、帰属集団内では他者の好意を期待する、その後者の点で、筆者は明白に日本的であったということ。

\* 所謂「甘えの構造」（土居健郎）の「甘え」とは、身内（同一帰属集団内の他のメンバー）への利己的な期待（もたれかかり）を意味する。「国内／国外」ではなく、「集団内／集団外」が、「甘さ」の有無を規定する。筆者の場合、国内では弱かった「同じ日本人」という帰属意識が、国外では無意識に、相対的に強くなってしまったために、無料でガイドを聞く「甘え」が生じたことになる。「国内／国外」は本質的な問題ではないのである。

二 階級へと分断化する日本のナショナリズムは、外国人と非国民とされる一部の日本人を、露骨に排除しだしているということ。

\* 「〈外〉と〈内〉」のうち、「〈内〉」は「可能的に「非国民」とされる国民」のことである。

三 字義通りの自然には、元來感覺的確信に即して知られる名称などなく、名称はすべて人為的仮構として付与されるということ。

\* 「生まれ・生地・血統・国籍」等を解答に用いないこと。それは構文的な読解ミスである。「もともとどんな名も存在しない（から）」という前提論の説明に、その帰結である「生地や血統の名は自然ではない」ことを述べるのは、論理的な誤りである。

\* 「自然に」＝「感覺的確信に即して」を解答に活用したい。

四 ナショナリズムの核心は不自由な平等性と排他性にあり、主張される国籍や国民的同一性は自然でないものを自然とする操作による仮構であり、突然自然さは否定されうる。したがって、生地や血統から日本人とされても、常に非国民とされる恐れがあるということ。（一二〇字）

\* 本文全体の主題が「日本のナショナリズム」であるから、「本文全体の趣旨」を踏まえるならば、その「本質」「不変の核」については言及しなくてはならないであろう。

五 a 緩      b 滑稽      c 深長